

令和 7年度 園評価書

園番号 28

園名 丸子こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
丸子大好き 心も体も元気な子	「もっとやってみよう」とわくわくする	子どもが「もっとやってみよう」とわくわくするような環境構成を考えて保育している	子どもと同じ目線で遊ぶことで、子どもの声やしぐさ、表情から一人一人の「わくわく」を見取り、環境構成することができた。保育者自身がわくわくして保育することが、子どもの「もっと」という意欲や、保育の面白さにつながることを再認識した。限られた時間の中で、環境を整えることの難しさもあり、すぐに実現できないこともあった	B	B	・節分の映像を見させて頂き、行事を物語にして、子どもがアイデアを出し合い、行動する姿に驚き、感心した ・0歳児の水遊びの映像では、その子にあった楽しみ方を先生方が工夫されている様子を、丁寧な保育を感じた ・子ども一人一人の「やってみよう」「もっと」という気持ちを大切に、日々の保育に丁寧に行っている園の姿勢がよく伝わってきた	・子ども理解と教材理解があっただけで、一人一人の子どものわくわくにつながることを学んだので、引き続き園内研修等で検討し合う
		子ども一人一人の「もっと」という気づきや発見を見取り、一緒にわくわくしたり、見守ったりしている	保育者の役割について、エピソード記述を見合ったり、話し合いの中で繰り返し検討していくことで、一人一人が意識して保育するようになった。年齢や状況に合わせて、子どもと一緒に考えたり、喜んだりすることで、子どもの表情が変わった。主張できない子や我慢してしまおうへの対応は今後も意識して取り組む必要がある	A	A	・重点目標で、子ども達の「わくわく」に目を向け、そこを大切にしているところがとても良いと思った。また、保育者自身が子どもと一緒にわくわくすることを目指していることも素敵だなと感じた。「わくわく」には新しいものへの「わくわく(広がり)」や、追求・発展の「わくわく(深まり)」など、様々な「わくわく」があると思うが、遊びを通しての深まりの部分ぜひ大切にしたい	・保育者の役割については、今後も理解を深めたい内容のため、教育・保育要領を活用したり、エピソードの話し合いで実践例を学び、自身の保育に活かせるようにする
		子どもがどんなことに気づき、何を楽しんでいるのかを振り返り、次の保育に活かしている	職員同士での10分の振り返りや、少しの間を活用して子どもの話をするのが定着した。子どもの様子だけでなく、職員同士の意思の疎通や今後の展開などを見据えての話ができるようになってきている。ちょっとしたことでもやってみることが大事だと再確認し実践したことで、子どもの更なるわくわくにつながった	B	B		・情報共有の大切さを実感したため、担任以外の職員とも積極的にコミュニケーションをとれるような場や時間を設け、互いの保育の理解が深まるようにする

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの育ち、発達、家庭環境を捉えながら学年目標に向けて保育を行っている	各クラスの10分間の振り返りや職員会議等で個々の姿や家庭環境を把握し共有することに努めた。学年目標は、それぞれのクラスの子どもの実態に合わせてものになっているため、一年間を通して無理なく保育をすすめることができた	A	A	・各領域において、子ども達の姿を起点に保育を振り返り、次の実践につなげようとする姿勢が一貫して見られた。今後も職員間の共有と改善を重ねながら、園の強みがさらに発展していくことを期待する	公開保育時以外にも教育課程や各クラスの月案、週案を見合うことを行い、発達のつながりを意識できるようにする。また、フリーの職員は、10分の振り返りに積極的に参加できるようにしたり、フリー職員だけの話し合いの場を設ける
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園生活の中で、子ども一人一人が安心・安定した気持ちで過ごせるよう、思いを受け止め、丁寧に関わっている	A	A	・職員が研修を受けたことで、減災に対する意識が高まった点は、素晴らしいと思った。その一方で園の様子を参観すると、多くの園児が思い思いに活動している姿を見出し、園児の怪我や事故を防止するのはなかなか難しいと感じた。防災対策の強化とともに、誤飲・誤食や怪我への対応など日常の安全対策についても十分な研修を積み重ね、安心・安全な園であり続けてほしいと感じた	今後も一人一人の子どもの思いを大切にするという意識を持ち、温かい気持ちで保育を行えるように職員間の連携を強化し、子どもの育ちを支えていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	「もっとやってみよう」と子どもがわくわくしている時にすぐに実現できるようにタイミングよく玩具や素材、道具等が用意されている	B	A	・クラスで虫を飼ったり、園庭で実ったミカンでジャムを作ったりと、忙しい家庭ではやらないようなことを、こども園で体験できた子ども達は幸せだと感じた	リーダー会議、遊び会議の有効活用方法を検討
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	訓練への反省が次月の取り組みに活かされ、状況に応じた行動や連携がとれるようになる	各クラスの反省をもとに、全体の課題を職員で周知し次月の訓練に活かすようになった。減災の研修を受けたことで、職員の災害に対する意識が高まり、「命を守るために」と一つ一つの行動に対して考えるようになり、子ども達への声掛けや訓練の方法も変化が見られてきている	B	B	・クラスで虫を飼ったり、園庭で実ったミカンでジャムを作ったりと、忙しい家庭ではやらないようなことを、こども園で体験できた子ども達は幸せだと感じた	意識の変化を大事な機会だと捉え、来年度の各訓練の計画に反映させていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	栽培や調理などの食育活動にさらに力を入れ、子どもや保護者の食への意識が高まっている	栽培した野菜を調理する機会を多く設けたり、身近に置くことで、子ども達自身が栽培物の成長に興味・関心をもち、日々の成長を楽しむようになった。食への意識が高まってきたと思うが、実際の食事につながっていない子どももまだ多い	B	B	・副園長先生の話聞く中で、個々の保育者の思いをしっかりと受け止めていることが分かり、素晴らしいと感じた。個々の働き方には、様々な制約があるとは思いますが、今後も保育者一人一人の思いを受け止めながら、「やりがい」を実感できる組織であり続けてほしいと願う	学年によって経験の差が出ないように、来年度の計画を今いる職員で見合い、クッキングではどんなことをするのか、具体的に話し合っておく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	公開保育やきりんの会など、全職員で見合える体制を作り、一人一人の実態や支援方法を理解し支援している	クラスの話し合いや担当者会議の内容を情報共有することで、それぞれが子どもの実態や支援方法を把握するように努め、理解を深めて支援を行っている。担当者の公開保育を行うことで、きりんの会の意味や子どもの成長を確認し合うことができた	A	A	・園長先生やベテランの先生から若い保育者さんを育てていこう、パートさん子どもと関わる大切な存在という気持ちで伝わり、温かな雰囲気を感じた	公開保育やきりんの会の参観など、動画を使って行うなど参加できる人数をさらに増やし、実践を通して共通理解を図る。また、毎月の会議でケース検討を位置づけ、子どもの実態や成長、家庭環境など語り合える場をつくる
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各自が責任をもって分掌に取り組み全職員が発信し、共有のもとに実施されている	一人一人の職員が分掌に対して責任感をもって取り組んでいる。前期は話し合いの時間の捻出ができなかったという声もあったが、意識して声を掛け合うことで、それぞれができることを見つけて、実践した	A	A	・読み聞かせで使った絵本をタブレットで記録、正確に伝わる方法なので情報をうまく生かしてほしい	引き続き、分掌の仕事に限らず、声を掛け合って連携していくことを実践する
6 研 修	(1)研修体制の充実	子ども一人一人の実態を捉え、重点目標に近づくよう日々の手立てを行い、全職員で学びを共有し、日々の保育に活かしている	重点目標や遊び改善構想のテーマがわかりやすく、一人一人の職員が自分事として保育の中に取り入れやすかった。また、公開保育だけでなく、エピソード記述を見合うことで、日々の手立てを意識し、実践につながるようになっていく	A	A	・絵本を通して、子ども達と楽しめるひと時を作ってください、ありがとうございます	今年度の成果と課題を出し合い、来年度も取り組みやすい重点目標や遊び改善構想を作成する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	日々の保育の中で危険だと思ったことはすぐに報告し合ったり、ヒヤリハットの検証をしながら安全な園庭、室内環境をつくっている	前期の反省を活かし、園全体で共有すること、すぐに改善することを実践した。全職員がヒヤリと感じた時に書く、報告することがまだ十分ではない	B	B	・最近では、連絡帳ではなく、配信アプリによって、園で様子を伝えるようになったと聞き、非常に驚いた。園で様子を伝える良い方法だと思うが、配信資料の作成作業が保育者の負担にならないよう十分配慮していただきたいと思う。また、3歳以上の園児の家庭には、園児一人一人の様子ではなく、クラス全体の様子を伝えるようになってきたと聞き、また、連絡帳への個別記載がなくなっても、園児一人一人に目を向けていく姿勢を今後も大切にしていきたいと願う	ヒヤリハットを報告する方法を再検討し、もっと提出率が上がるようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	各学年の遊びの様子や経過、学びの姿をドキュメンテーションや連絡帳機能を使ってわかりやすく保護者に発信している	遊びの経過や学びの姿を意識して配信しているが、伝わっていないこともあり、写真の撮り方、文章での説明など保護者への発信の方法は検討する必要がある。行事への取り組み方を丁寧に伝えたことで、保護者の理解が深まっているという現状もある	B	B	・園長先生やベテランの先生から若い保育者さんを育てていこう、パートさん子どもと関わる大切な存在という気持ちで伝わり、温かな雰囲気を感じた	園内研修の議題として位置づけ、他学年の物を見合い、意見交換をする
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	長田5力園交流や公開保育、公開授業、研修を通して、近隣園や小学校との連携を深めている	職員同士の交流で刺激を受け合い、自身の保育に活かすことができている。また、公開保育時に小学校教諭を講師として招くことで、現在の保育が小学校での学習にどうつながっているのか、具体的に学ぶことができ、大切にしたいポイントを共有できた	A	A	・園長先生やベテランの先生から若い保育者さんを育てていこう、パートさん子どもと関わる大切な存在という気持ちで伝わり、温かな雰囲気を感じた	長田5力園の職員同士の交流は、職員自身が主体性をもって取り組めるようにする。近隣小学校との交流については、年度当初に計画をし、小学校へ早めに相談できるようにする
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	子ども達が様々なことを体験できるよう、職員が地域の良さや特性を知り、地域の資源をさらに積極的に保育に取り入れている	年長船を中心に丸子川での環境教育や、虫捕り、鬼の家訪問など地域を活用した保育を展開している。園内研修で「丸子の自然」について実践を詰め話し合ったことで、保育の中で活かすことができた。それにより、子ども達も丸子をより身近に感じるようになっていく	B	B	・園長先生やベテランの先生から若い保育者さんを育てていこう、パートさん子どもと関わる大切な存在という気持ちで伝わり、温かな雰囲気を感じた	一年を通して「丸子の自然」を学び合えるように、来年度は早々に「春の丸子の自然」を園内研修で行う